

ソリューション広告集

「答えは、CTC。」

## CONTENTS

---

- |    |                 |                                    |
|----|-----------------|------------------------------------|
| 3  | <b>Answer 1</b> | ITで答える。CTCが答える。                    |
| 4  | <b>Answer 2</b> | 膨大なデータをつなぐ技術が、<br>物流の常識をくつがえす。     |
| 8  | <b>Answer 3</b> | 再生可能エネルギーを予測する力が、<br>電力供給の明日をひらく。  |
| 12 | <b>Answer 4</b> | 金融分野で磨いたオープン化技術が、<br>カードの安心をガードする。 |
| 16 | <b>Answer 5</b> | 流通の進化を支えてきた開発力が、<br>お買い物をスマートに変える。 |
| 20 | <b>Answer 6</b> | 基幹系特化型クラウド、始動。<br>CUVICmc2         |

# The



## ITで答える。CTCが答える。

私たちCTCは、ITのチカラで、世の中にもっと便利や安心を広げていきたいと考えています。  
たとえば、大切な人へのプレゼントや、ネットでのお買い物を時間どおりに運ぶスマートな物流を支える。  
自治体とそこに住む人々をしっかりと結んで、行き届いた公共サービスをお手伝いする。  
気象や地震のデータを解析して、災害に強い街づくりに貢献する。  
暮らしに、地域に、社会に、CTCだからできることをカタチにしていきます。  
夢のある豊かな社会を実現するために—— Challenging Tomorrow's Changes.

# Answer



「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 [www.ctc-g.co.jp/](http://www.ctc-g.co.jp/)

# CTC

Challenging Tomorrow's Changes

個人投資家向け会社説明会を開催中 [詳しくはこちら](#) [CTC IR情報](#) [検索](#)



# The

膨大なデータをつなぐ技術が、  
物流の常識をくつがえす。



# Answer

「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 [www.ctc-g.co.jp/](http://www.ctc-g.co.jp/)

私たちの生活やビジネスはデータの流れの上で動き、無数に構築された通信ネットワークやモバイル端末でやりとりされる情報量は加速度的に増え続けています。

CTCは、インターネットの黎明期から時代の先端を行く技術や製品をいち早く取り入れ、活用しながら、情報通信のイノベーションを牽引してきました。大規模ネットワーク、大量トランザクションに対応するCTCのシステムは、膨大なトラフィック処理が常に要求される大手通信事業者や信頼性が最重視されるさまざまな分野の企業に採用され、日々のコミュニケーションと業務サービスを支えています。

情報通信で培った技術とノウハウは、これまでにはなかった“新しい便利”も生み出しはじめています。その一例が「MAMS\*」。大規模ネットワークの設計ノウハウを駆使した分析技術を確立し、物流システムにおける効率的な配送計画の作成に応用しました。MAMSはすでにインテリアや食材、介護用品の宅配サービスなどで活躍をはじめています。

暮らし、地域、社会のために、ITだから出せる答えをカタチにしていく。CTCはこれからも、よりよい明日への変革に挑戦していきます。

\*MAMS: Mobile Asset Management Service (配送計画作成・実行管理クラウドサービス)



事前登録制  **CTC Forum Tokyo 2015 開催**

日時: 2015年10月16日(金) 10:00~18:00 会場: ホテル日航東京 (10月よりヒルトン東京お台場に名称が変わります)

個人投資家向け会社説明会を開催中 [詳しくはこちら](#) [CTC IR情報](#) [検索](#)

**CTC**  
Challenging Tomorrow's Changes

## 物流の常識を覆す新サービス誕生の背景

日々、便利で快適になっていく私たちの暮らし。

その背景には、裏方としてさまざまな仕組みを変えている情報通信技術の進歩があります。

CTCはインターネット黎明期から最先端技術をいち早く取り入れ、情報通信のイノベーションを牽引してきました。

蓄積した大規模ネットワークの設計ノウハウをもとに、

物流における配送計画の効率化に貢献する新たなソリューションを開始しました。

ここでは物流の仕組みを大きく変え、暮らしを便利にするソリューション、

「MAMS(Mobile Asset Management Service)」が誕生した背景とサービスの概要についてご紹介します。

### “消費者視点”に立ち、 発想転換して生まれたソリューション

物流業界では注文後、消費者のもとへいかにスピーディに商品を届けるかが重要になっています。しかし同じ会社でも店舗とネット部門の担当組織が分かれていることが多く、消費者の利便性の追求にあたっては連携しづらいことも多い状況です。

サービスの提供を支えるシステムについても、これまではお客様企業がシステムの仕様を決め、それに沿う形でSI企業がシステム開発を進めてきました。今では付加価値の高いサービスを迅速に提供するために、お客様企業と共にSI企業が消費者へのサービスレベルを向上させるための仕組みづくりを考えるよう変化しています。

そんな中、CTCの知見をもとに生み出したサービスが「MAMS※」です。商品の配送時間を短縮し、消費者の希望時間に届けるためには、配送のための人員確保やトラックなどの手配が欠かせません。「いつでもどこでも好きな時に買ったものを受け取りたい」。そんな消費者の要望に応え、高い要求にスムーズに応えられるように、システム設計に取り組みました。

既存の基幹システムやECサイト、倉庫管理システム、商品の受発注システムなど、複数のシステムをクラウドで連携。PCやタブレット端末を通じて、受注と同時に担当者が専用端末に配送予約を入力・リアルタイムで処理し、配送スタッフなどの人員やトラックなどを自動で確保します。そして消費者が希望する時間帯を配送スタッフにスマートフォンを通じて通知。複数のシステムをつなぎ、組み合わせることで消費者が希望する時間での配送を実現しました。

### 情報通信に精通したノウハウが 新サービス誕生につながった

私たちが考える物流の仕組みは、通信がベースです。あらかじめ決めたルールに則って、情報のやりとりをするのが通信。モノのやりとりをするのが物流です。目に見えるものと、目に見えないもの、それぞれ運ばれるものは異なりますが、運ばれ方の基礎は同じです。通信と物流の基礎が同じ点にヒントを得て、MAMSが生まれました。

私たちはこれまでインターネット黎明期から最先端技術や製品をいち早く導入。24時間365日止めることのできないミッションクリティカルな大手通信キャリアの大規模ネットワークの設計から構築・運用まで携わってきました。その際、膨大なトランザクションを効率的に処理するノウハウを蓄積。データベースのパフォーマンス維持や通信データを輻輳させない仕組みについても習熟しています。世界中、大量に日々行き交う膨大なデータが瞬時にやりとりできるインターネット技術を軸にして、物流で効率的な配送計画の作成に応用しました。物流業界に革新をもたらすようなソリューションを生み出せるのは、情報通信に精通したCTCならではの強みです。

※MAMS：Mobile Asset Management Serviceの略称。モバイル端末を利用して、商品の受注と同時に、お届け日時の予約から宅配リソース計画、配送実行、業務報告、貨物追跡サービスまで、物流に必要なあらゆるサービスをワンストップで実現するソリューションです。

## サービス概要

物流業界では今、消費者がお店やネットで商品を購入し、受け取りはお店でも自宅でもできるシームレスな環境を目指しています。「MAMS」はそんな究極のCRM(カスタマリレーションシップマネジメント)を実現するためのソリューションです。モバイル端末を利用して、商品の受注と同時にお届け日時の予約から宅配リソース計画、配送実行、業務報告、貨物追跡サービスまで、物流に必要なあらゆるサービスをワンストップで実現します。

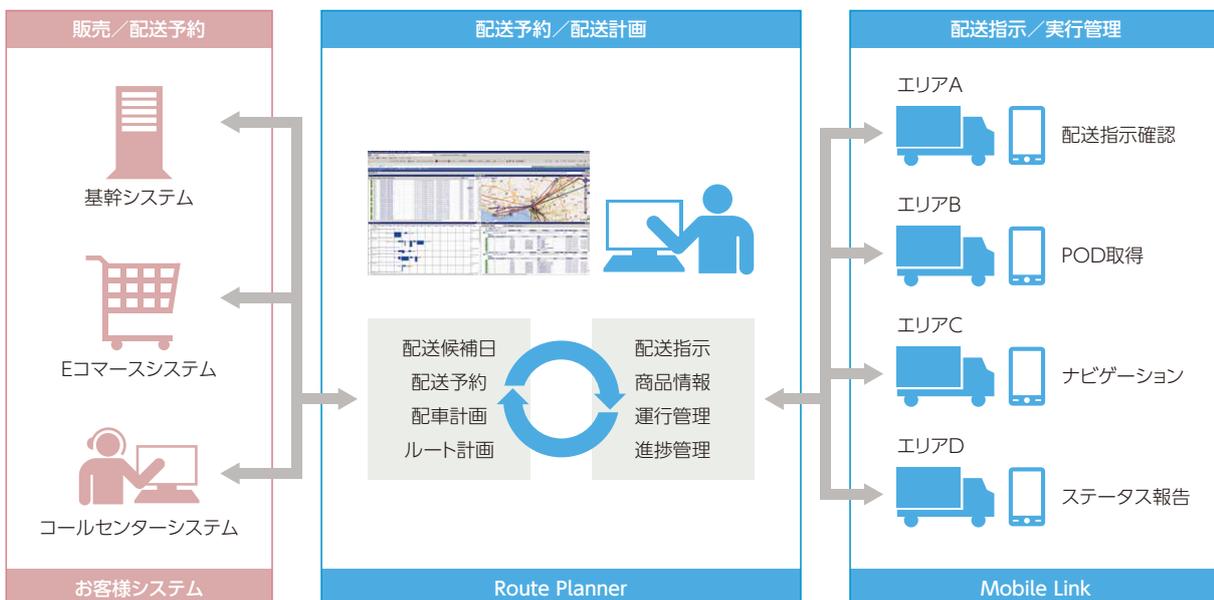
## MAMS導入で物流はどう変わる!?

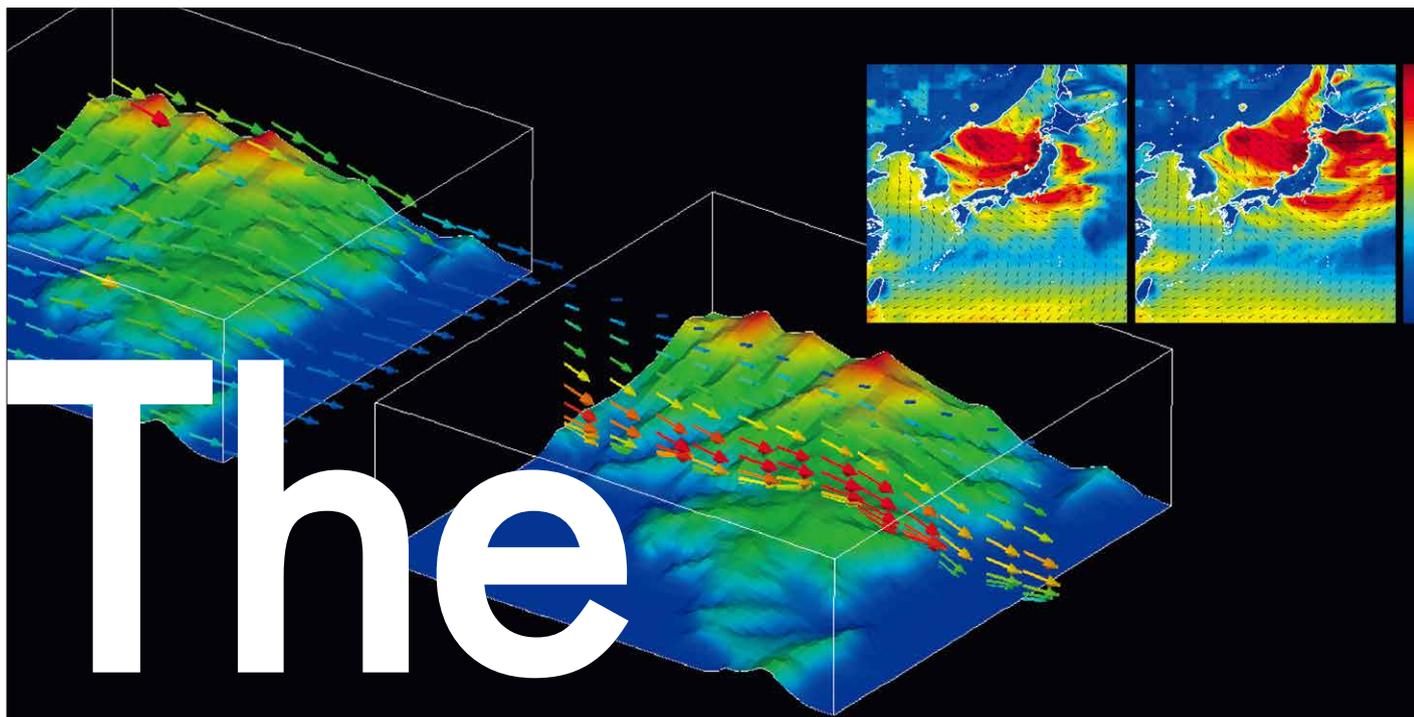
### ■消費者のメリット

- ☑商品を購入した時点で配達日付・時間が約束される
- ☑商品受け取りの前日や当日に詳細な配達時間が確認できる
- ☑配送状況がリアルタイムで確認できる

### ■物流会社のメリット

- ☑時間指定配達サービスを低価格で提供できる
- ☑着荷情報がリアルタイムで確認できる
- ☑受発注業務を自動化し、正確な業務運営が可能となる





再生可能エネルギーを予測する力が、  
電力供給の明日をひらく。

Answer



写真提供：一般社団法人 日本風力発電協会

「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 [www.ctc-g.co.jp/](http://www.ctc-g.co.jp/)

気象は、自然界のビッグデータ。気圧、気温、湿度といった大気の状態や地形など、さまざまな要素が絡み合っ変化する気象を正確に予測するためには、きわめて大きなコンピュータパワーと高度な専門的知見が要求されます。

CTCは、日本で初めて世界最速のスーパーコンピュータを導入し、科学分野に特化したチームを組織。独自の気象数値予測モデルを確立し、気象観測プロジェクトへの貢献など、数々の成果を積み上げてきました。実績に裏づけられた知見とノウハウを集積したシミュレーション技術は、高度な気象情報サービスを可能にするだけでなく、風力発電の適地選定や、風力・太陽光発電の出力予測など幅広い分野で実を結んでいます。

さらに現在は、シミュレーション技術と、データ収集および監視に関わるITを組み合わせた新たなサービスの創出に向け、NEDO\*1が推進するプロジェクト\*2にも参画。天候によって発電量が左右される風力や太陽光などの再生可能エネルギーをより有効に活用し、安定的な電力供給を目指すシステムづくりも担っています。

暮らし、地域、社会のために、ITだから出せる答えをカタチにしていく。CTCはこれからも、よりよい明日への変革に挑戦していきます。

\*1 NEDO: New Energy and Industrial Technology Development Organization  
(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)

\*2 電力系統出力変動対応技術研究開発事業



事前登録制

入場  
無料

建築・土木の

未来のカタチが見えてくる。

**CIM JAPAN 2015開催**

日時: 2015年10月28日(水) 9:30~17:30 会場: 東京コンファレンスセンター品川

個人投資家向け会社説明会を開催中 [詳しくはこちら](#)

[CTC IR情報](#)

[検索](#)

**CTC**

Challenging Tomorrow's Changes

## 最先端の発電出力予測技術が電力供給の未来を変える理由

2030年までに電力供給全体の22～24%を再生可能エネルギーでまかなうという目標を掲げた日本。

しかし比較的コントロールしやすい火力や水力発電などと比べて、

太陽光や風力発電などの再生可能エネルギーは気象条件によって発電出力が大きく変動します。

安定的な電力供給を実現するためには、電力の需要と供給のバランスや再生可能エネルギーの出力を予測する技術が必要不可欠です。

世界最速のスーパーコンピュータをいち早く導入し、日本で初めて民間企業として気象予報を開始。

数々の実績を積み重ねてきたCTCが提供する最先端の発電出力予測技術が試されようとしています。

今回、なぜ発電出力予測技術が電力供給の未来を変えることができるのか、その理由に迫ります。

### 再生可能エネルギーが ますます注目を集める世の中に変化

2013年11月に「電力システム改革法(改正電気事業法)」が国会で成立。2016年4月から小売電気事業者が電気料金を自由に決定、供給することが可能になるなど、日本国内の電力供給の仕組みは大きく変わろうとしています。また、地球温暖化対策や環境保護の観点から注目されるようになった太陽光や風力発電などの再生可能エネルギーは、気象条件によって発電量が大きく左右されるという特性があります。その発電量をいかに正確に予測できるかが、今後、再生可能エネルギーを有効活用できるかどうかのカギとなっています。

### 膨大な計算処理力と気象の知見を 連携させることで高精度の予測が可能に

CTCは1980年に日本で初めて世界最速のスーパーコンピュータ(CRAY-1)を導入。膨大な計算処理ができるハードウェアを利用するため、お客様の要望に応じて、スーパーコンピュータを使いこなすためのソフトウェアの設計・導入、運用を長年続けてきた結果、今では膨大なデータを管理・分析する高い技術を蓄積しました。

スーパーコンピュータと気象。一見、なんのつながりもないようですが、スーパーコンピュータが日常的に使われることの多いのが気象予測の分野です。気圧や気温、湿度などの大気の状態や、地形などのさまざまな要素が絡み合っただけでなく、目まぐるしく変化する天気は、日本各地の約1,300地点のアメダスや世界中から集まってくる膨大なデータを、強大なコンピュータパワーを使って「数値予報モデル」で迅速に処理することで予報されます。

CTCは、気象に関する数値予報モデルを独自に開発し、1992年に民間向け気象計算サービスを開始。その後、その知見やノウハウを生かし、20年近くにわたり、風力発電に関わる解析・予測サービスを提供し、実績を積み重ねてきました。

20km四方が限界だった風力の解析を1km四方の範囲内で算出することにも成功。2003年には財団法人新エネルギー財団から「資源エネルギー庁長官賞」を受賞し、今では50m四方の単位で解析ができるまでになるなど、予測の精度は向上しています。また、国内の50%以上の風力発電の事業化調査を実施。現在はシミュレーション技術と、データ収集および監視・制御に関わるIoT<sup>※1</sup>を組み合わせた新たなサービスの創出に向け、NEDO<sup>※2</sup>が推進するプロジェクト<sup>※3</sup>にも参画するなど、活躍の場を広げています。

※1 IoT: Internet of Things

※2 NEDO: New Energy and Industrial Technology Development Organization  
(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)

※3 電力系統出力変動対応技術研究開発事業

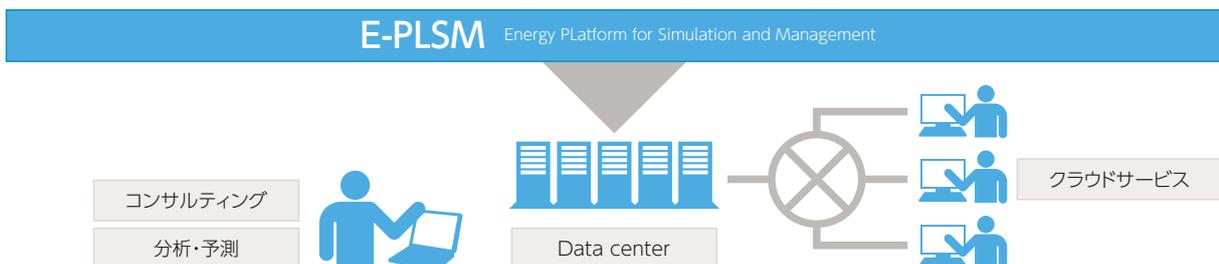
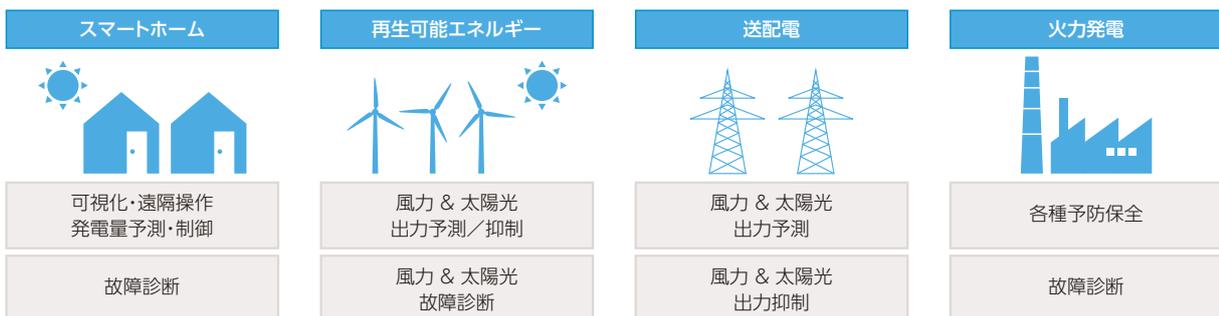
## サービス概要

E-PLSM(エプリズム)は、一般住宅の電力使用量、再生可能エネルギーの発電量、火力発電の設備運転情報などのデータを集中管理し、電力の需要と供給の状況を把握・予測・制御するクラウドサービスです。膨大な気象データや実際の発電量データを元に、再生可能エネルギーの発電量を予測し、電力の需要量とのバランス調整に役立てることができます。

### 統合型エネルギー管理サービス

事業者が必要とするエネルギー関連データを集中管理することにより、エネルギーにおける予測と事象を把握、PDCAサイクルを支援するクラウドサービス

- 特徴
- ① 多目的(IoT)プラットフォーム
  - ② 430を超えるセンサー仕様に対応
  - ③ 時系列データベースを採用(過去・現在・未来データを扱う)
  - ④ 高可用性
- その他
- ⑤ 独自アプリを具備・追加可能
  - ⑥ 気象関連データとの一括提供可能





# The

金融分野で磨いたオープン化技術が、  
カードの安心をガードする。



# Answer

「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 [www.ctc-g.co.jp/](http://www.ctc-g.co.jp/)

ネットショップ、デパートやレストランなど、さまざまなシーンでカードの出番が増えています。簡単で便利なクレジット決済、しかしそれが日常的になればなるほど、セキュリティも重要になっていきます。

CTCは、マルチベンダーとして、高い堅牢性と機密性を誇るオープン系システムの構築に長年取り組んできました。日々進化するITの最新動向にアンテナを張り、入念な技術検証を経て組み上げられるシステムは、メガバンクをはじめ、証券会社、クレジットカード会社など、金融分野の多くの企業に採用されています。

豊富な実績を通して信頼を揺るぎないものにしてきた私たちの技術とノウハウは、セキュアな環境のもとで柔軟なサービス展開を可能にするクレジット業務ソリューション「C-ARCS\*」を生み出すだけでなく、自治体や民間企業において進められているマイナンバー対応にも活かされています。

暮らし、地域、社会のために、ITだから出せる答えをカタチにしていく。CTCはこれからも、よりよい明日への変革に挑戦していきます。

\*C-ARCS:CTC Advanced Reliable Credit Solution



**個人投資家向け会社説明会を開催中** [詳しくはこちら](#) [CTC IR情報](#) [検索](#)

**CTC**  
Challenging Tomorrow's Changes

## オープン化の技術で構築したクレジット業務ソリューションとは？

デリバティブや外為などの市場系リスク管理システムの開発、  
コンタクトセンターの構築・運用、グローバル展開に伴う現地システム対応など、  
CTCは金融業界のお客様をITで支えてきました。  
その実績をベースに、現在はオープンシステムをベースとしたクレジット業務ソリューションも展開。  
お客様の規模に合わせたカスタマイズやスマートフォンやタブレットとの連携など、  
時代の変化に柔軟に対応しています。

### メインフレームと同等の品質を有する クレジット業務ソリューション「C-ARCS」

高い堅牢性と機密性が要求されるクレジットカードシステム。  
CTCは、これまで金融業界向けのプロジェクトで培った大規模システム構築やアプリケーション開発の経験、24時間365日システムを安定稼働させる運用ノウハウをベースに、クレジット業務ソリューション「C-ARCS(CTC Advanced Reliable Credit Solution)」を提供しています。

C-ARCSは、従来のメインフレームによる大規模システムと同等の信頼性や処理品質をオープン系プラットフォームで実現しました。申込受付から審査、カード発行、売上、請求、入金、延滞督促など、カード・割賦業務全般を行うための基本機能を標準で実装し、短期間でシステムを構築することができます。

オープンプラットフォームの採用により、会員数や加盟店数、取引量など、お客様の規模に応じたシステム構築が可能です。また、業務ロジックを400種類以上にパラメータ化することで、決済条件、カード限度額設定、年会費、手数料など、クレジット商品の種別や提供期間ごとに異なるサービスの条件設定を、大規模なシステム開発無しに実施することができます。さらに、アプリケーションを業務機能単位でモジュール化。インフラの変更や業務要件の追加・改修の際は影響範囲を最小限にするなど、ランニングコストやシステム開発費用を軽減します。インターネットや電話、音声応答装置など周辺システムとの接続機能も備え、スマートフォンやタブレット端末などのモバイル機器にも対応します。

### インフラ機能と運用サービスを組み合わせ 高度なセキュリティの提供が可能に

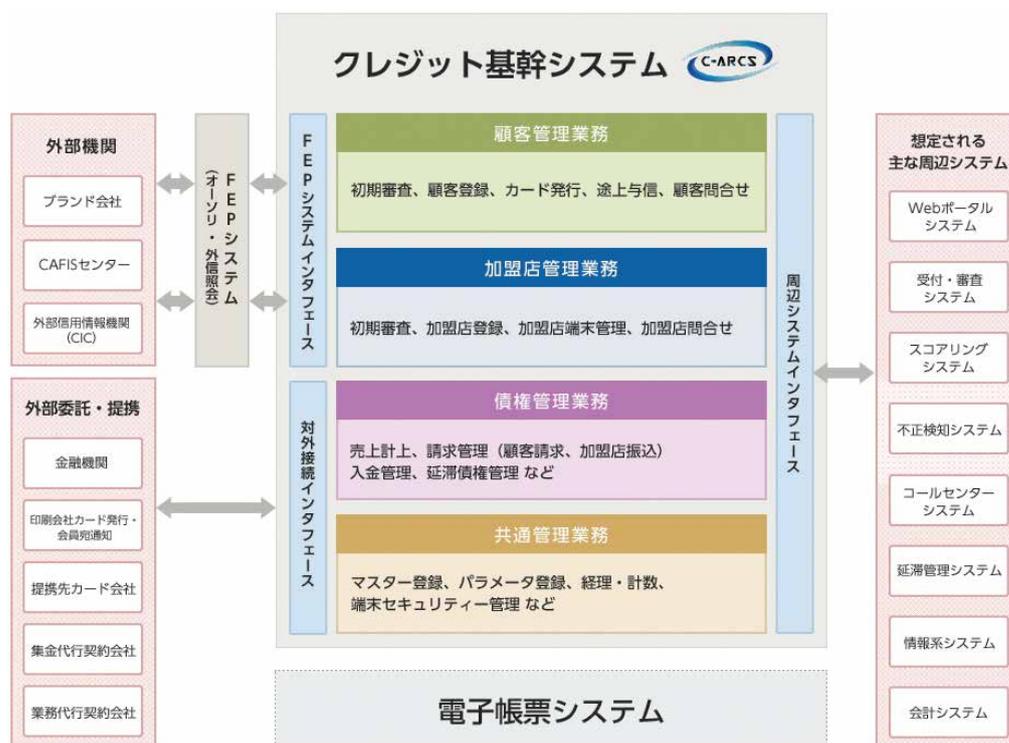
C-ARCSは、クレジット業界におけるグローバルセキュリティ基準「PCI-DSS ver3.0(Payment Card Industry Data Security Standard)」で求められるデータ保護やアクセス制御など12の要件をふまえ、高い信頼性を確保しています。また、ネットワークやシステム設計を強化しデータセンターへ収容。データセンターに出入りする人の顔、作業中の手元や操作内容をモニタリングするなど、カード会員データや取引内容など機密性の高い情報を外部に流出させない仕組みも徹底しています。

堅牢性と信頼性が求められるシステムを構築してきた技術とノウハウは、自治体のマイナンバー対応や行政サービスの構築などにも活かされています。

## サービス概要

C-ARCSは、カードや割賦の基幹業務全般の機能を網羅し、信販系・流通系・銀行系・消費者金融系など、多様なクレジット商品に対応しています。また、オーソリゼーションシステムと個人信用情報照会システムに対するインタフェース、金融機関に対する対外接続インタフェース、インターネットや音声応答装置などの個別システムに対する周辺システムインタフェースを備え、お客様のシステム環境に応じて柔軟にカスタマイズが可能です。

C-ARCSは4つのサブシステムと、  
3種類の周辺接続用インタフェースで構成されています。





# The

流通の進化を支えてきた開発力が、  
お買い物をスマートに変える。



# Answer

「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 [www.ctc-g.co.jp/](http://www.ctc-g.co.jp/)

インターネットを利用した商取引の拡大、業務プロセスやサプライチェーンの刷新など、流通業界は積極的なIT活用によって目覚ましい変革を遂げています。

流通は、CTCが長年にわたってインフラ構築、ITソリューション開発に力を注いできた分野の一つです。数千人規模のエンジニアを動員し、グローバルに活動する総合商社や重要な社会インフラとなったコンビニエンスストアの基幹システムから、石油元売り会社や大手飲料メーカー、スーパーマーケット、さらには外食企業の情報分析システムまで、多岐にわたる情報システムの開発をお手伝い。運用開始後も、24時間365日の安心を支えるだけでなく、バックオフィス業務のアウトソーシングサービスや消費者ニーズを捉えるためのマーケティング分析などさまざまなサービスを提供してきました。

こうした実績を通じて蓄積した専門知識と開発力を活かし、視線を消費者に広げて作り上げたのが、スマートフォンやタブレット端末で冷蔵庫の中を“見える化”するシステム。外出先でも食材の使い残しやストックをチェックでき、買い過ぎ、買い忘れを防ぐことができます。

暮らし、地域、社会のために、ITだから出せる答えをカタチにしていく。CTCはこれからも、よりよい明日への変革に挑戦していきます。



**個人投資家向け会社説明会を開催中** [詳しくはこちら](#) [CTC IR情報](#) [検索](#)

**CTC**  
Challenging Tomorrow's Changes

## 流通の業務知識をベースに、新サービスを生み出した底力

スマートフォンやタブレット端末の普及によって、

“いつでもどこでも”好きな時に買い物ができるようになり、私たちの暮らしは大きく変化しました。

CTCが2015年9月にリリースした「食材管理アプリ」と「家計簿アプリ」も暮らしの質を向上させてくれるものの一つです。

これらアプリを活用すれば、冷蔵庫にある食材を手軽に管理できるようになり、

さらに店舗や宅配での購買情報と家計簿アプリとの連動で、家計簿の管理も容易になります。

今回は、このサービスの特徴や利用者と小売業者のメリットなどについてご紹介します。

### リアルな消費者行動を 読み解くキーになる新サービス

ITの活用が進んだ流通業界では、「店舗に足を運んで買い物をする」というこれまでの小売業の常識が覆り、インターネットで必要なものを手軽に手に入れられる時代となりました。小売業者はより買い物しやすい仕組みを充実させていくことに注力し、モバイル端末向けのサービスを拡充、独自のアプリを用意するなど、ビジネスの拡大を図っています。2015年9月末にCTCからリリースされた「食材管理アプリ」と「家計簿アプリ」も、モバイル端末向けサービスです。

「食材管理アプリ」は、購入した商品が自動で登録され、自宅の冷蔵庫の中にどんな食材が入っているのかが外出先からリアルタイムかつ一目で確認できます。二重購入や買い忘れ防止だけでなく、食材の賞味期限もわかるため無駄に廃棄される「食品ロス」を軽減することにも役立ちます。「家計簿アプリ」は、ECサイトで購入した商品が自動で登録されるのはもちろん、レシートをカメラで撮影することで、店舗で買った食品の情報も取り込むことが可能です。購入した商品が自動で家計簿に反映されるので、簡単に支出を管理できるようになります。小売業者が、「食材管理アプリ」や「家計簿アプリ」を活用すれば、自社で運営しているECサイト上の顧客の購買情報だけでなく、消費者の他店舗の購買動向を含めたより詳細な消費動向が把握できるようになります。さらに、リアルな消費行動の把握は、商品開発やラインアップの拡充、レコメンドやクーポン発行など、お客様サービスの向上につながる可能性があります。既に6月から、1都7県で438万の組合員を持つ、国内最大の生協法人である生活協同組合連合会コープネット事業連合が本サービスの利用を開始しています。

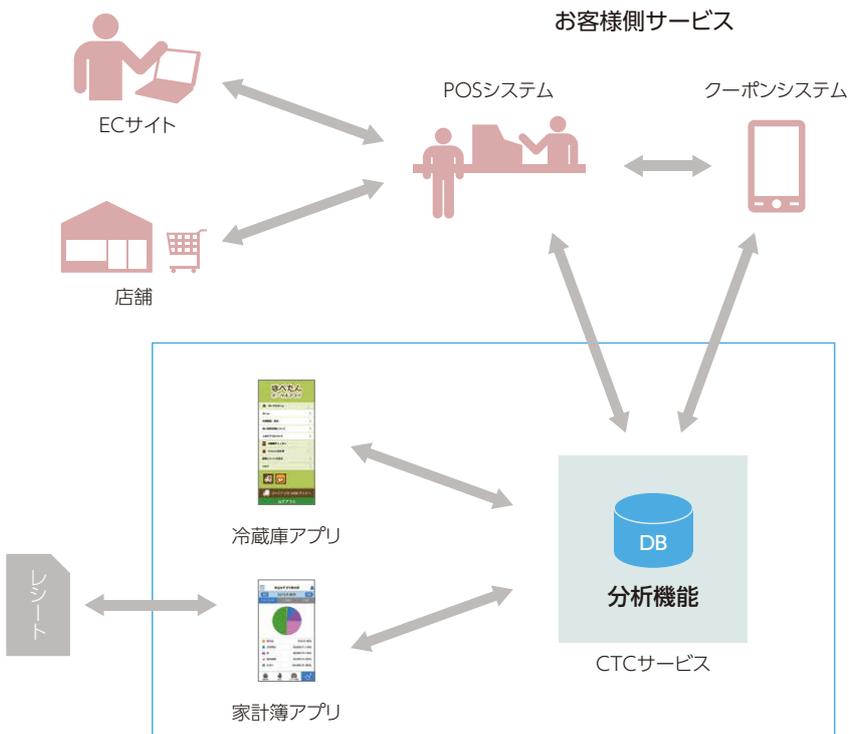
### 開発力と組み合わせる力で、 時代の半歩先をいく提案を実現

CTCは、これまで流通業界向けビジネスに長く携わり、総合商社やコンビニエンスストアの基幹システムから、石油元売会社や外食産業の情報分析システムまで数々の実績を積み重ねてきました。最近では、大手飲料メーカーと共同で、クラウド型予測分析ソフトウェアを使用し、メニュー変更やプロモーション施策が売り上げや利益、来店者数や注文に与える影響を測定、そこからビジネス改善の機会を特定する、飲食店向けのデータ解析サービスにも取り組んでいます。

多様化する市場やお客様のニーズを把握しながら、ITによるお客様への貢献を追求し続けてきた結果、流通業界と流通業界のお客様業務に精通し、システム開発から運用までトータルにサポートできる力を備えています。今回リリースした「食材管理アプリ」と「家計簿アプリ」はお客様と一体となり、“小売業のビジネス発展のために何が必要か”を突き詰めて生まれてきたサービスです。新たなソリューションを生み出す突破口を見出した背景には、システム仕様を満たす上で最も適したインフラを見極め、プログラムを組み合わせるCTCの“つなぎ、組み合わせる力”を軸に、コストパフォーマンスに優れた開発を行うことができたからに他なりません。スマートフォン向けアプリの開発は、CTCがこれまでの経験に基づき策定した独自の品質管理プロセスで高い品質を確保するなど、様々なCTCならではの強みを結集させています。今後もお客様の成長に貢献するITを提案し続けることを目指しています。

## サービス概要

「食材管理アプリ」は、ECサイトや店舗で購入した商品を自動登録。他店で購入した食材も、レシートをスマートフォンのカメラで撮影して登録すれば、一元管理できる優れたものです。ECサイトで購入したものに関しては、賞味期限切れの目安を泣き顔マークなどで分かりやすく表示し、お客様に安全と安心を提供します。「家計簿アプリ」は、ECサイトと店舗で購入した両方を登録することができるので煩雑な手入力作業も不要。小売業者にとっては、リアルな消費行動を把握する重要なマーケティングデータを入手することに役立てられます。



## 「ほべたんポータルアプリ」 画面イメージ





Virtustream  
CEO  
Rodney Rogers

伊藤忠テクノソリューションズ  
代表取締役社長  
菊地 哲

「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 [www.ctc-g.co.jp/](http://www.ctc-g.co.jp/)

# Answer 始動。

SAPジャパン  
代表取締役社長  
福田 譲



IT投資の7割以上を占めるといわれる基幹系システム。クラウドへ移行すればコストは減らせるけれど、パフォーマンスやセキュリティを犠牲にはできない。CTCがその課題に答えを出します。CUVICmc2は、企業の中核を担う基幹系システムをセキュアに安定稼働させる新たなクラウドサービス。次世代ERPパッケージ S/4 HANAで基幹系システムを進化させ続けるSAPジャパン、多くの企業や政府機関のミッションクリティカルなシステムを革新的な技術で支えるVirtustream社と連携して、CTCがニッポンのクラウド環境を変えていきます。

## CUVICmc2

詳しい情報はこちら  
[cloud.ctc-g.co.jp/solution/service.html](https://cloud.ctc-g.co.jp/solution/service.html)

**CTC**  
Challenging Tomorrow's Changes

## 本格始動する基幹系システムのクラウド化

インターネット上のITリソースを必要な時に必要な分だけ利用できる画期的なサービスとして登場したクラウド。

しかし企業経営の根幹を支え、重要な業務を担う基幹系システムは安定性と堅牢性が重視されるため、多くの企業はオンプレミスのシステムで運用してきました。

一方、基幹系システムは企業にとって運用の負担が大きく、クラウド活用への期待が高まっています。

CTCは、2016年4月より基幹系特化型のクラウドサービス「CUVICmc2(キュービックエムシーツー)」を開始します。

このサービスが他の基幹系クラウドサービスと何が違うのか、掘り下げていきます。

### 無事故・無停止の安定運用の実績を土台に 始まる基幹系クラウド

CTCは、「仮想化」というキーワードが世に出始めた2007年からシステム統合化やプライベートクラウド案件を数多く手がけ、大規模システムの設計・構築に携わってきました。

2008年には、プライベートクラウドのノウハウを基に、IaaS (Infrastructure as a Service) 型の仮想化ホスティングサービス「TechnoCUVIC」の提供を開始。2012年には、長年にわたるメインフレームの運用や大規模なオープン系システムの設計・構築・運用、多種多様なベンダー製品に対応した保守サービスのノウハウを結集し、ITインフラの設計・構築から運用・保守までワンストップで行う「ElasticCUVIC」をリリースしました。

そして、CTCはこれまでのクラウドサービスの提供で培ったノウハウを基に新たなサービスを発表。世界の企業や政府機関に対して基幹系システム向けのIaaSサービスを展開している米国Virtustream社と、統合業務ソフトウェア(ERP:Enterprise Resource Planning)で国内トップシェアを誇るSAPジャパンとともに、基幹系システムに特化したクラウドサービス「CUVICmc2」を2016年4月より提供します。

### 高い安定性・堅牢性を保持し、 真の従量課金を実現

CUVICmc2は、SAPソリューションをはじめとする基幹系システムに特化したクラウドサービスです。システムの安定稼働と高いセキュリティに強みを持つVirtustream社のIaaS技術をベースに、1987年の稼働開始から25年以上にわたって無事故・無停止の安定運用の実績を誇る自社データセンターから提供します。CTC、Virtustream、SAPジャパンの3社の最先端技術を結集したCUVICmc2の特長は3つです。

1つめは、「性能保証」。一般的なクラウドサービスに多く見られる、サービスの可用性を担保することに加え、ストレージの応答時間や大規模災害時の復旧性能に対しても保証しています。

2つめは、「高セキュリティ&コンプライアンス」。日々猛威を振るう脆弱性にリアルタイムで対応します。また、CPUレベルでの暗号化技術であるIntel TXT<sup>※1</sup>やポータルの2要素認証<sup>※2</sup>をはじめ、様々なセキュリティテクノロジーによる強化に加えて、日本セキュリティ監査協会(JASA)のクラウドセキュリティ監査ゴールドマークやクレジットカード業界のデータセキュリティ基準「PCI-DSS」などにも対応予定です。Virtustream社は世界トップクラスと言われるセキュリティレベルのクラウドサービスを提供しており、そのノウハウを活用し、CUVICmc2でも同様のセキュリティとコンプライアンスを実現していきます。

3つめは、「実使用量ベースの従量課金」。従来のIaaSの従量課金では、CPUやメモリなど確保している固定リソース分に対する時間を元に課金が行われました。CUVICmc2では、Virtustream社の特許技術「 $\mu$ VM(マイクロブイエム)」を活用し、CPU、メモリ、ネットワーク、ストレージを複合的に計測することで仮想環境でのリソースの実使用量を把握し、使用していないリソースと時間を除いた課金を行います。

基幹系システムのクラウド化が加速する中、CTCはお客様のご要望を的確に把握し、最適な提案でクラウドの新時代を切り拓いていきます。

※1 Intel Trusted Execution Technology。サーバを含むハードウェアのCPUチップやファームウェアレベルでセキュリティを確保する技術。

※2 オンライン認証方式に関する3つの要素「記憶(SYK:Something You Know)」、「所持(SYH:Something You Have)」、「バイオメトリクス情報(SYA:Something You Are)」の内、2つの要素を使用して本人認証を行う仕組み。

### 3社の役割



CTC、Virtustream、SAPの  
3社のノウハウを結集

### 10/9記者説明会開催

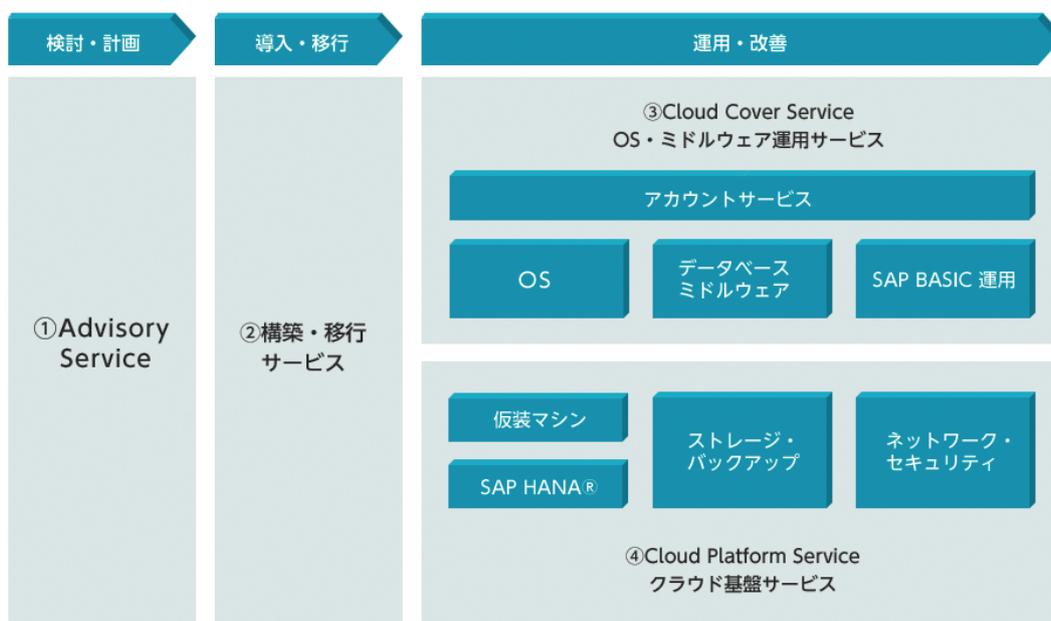


左から、  
Virtustream CEO Rodney Rogers  
CTC 代表取締役社長 菊地 哲  
SAPジャパン 代表取締役社長 福田 譲  
CTC CTO 大久保 忠崇

## サービス概要

CUVICmc2は、投資効果を査定する①「Advisory Service」、既存環境からの移行を行う②「構築・移行サービス」、OS・ミドルウェアの運用サービスである③「Cloud Cover Service」、IaaS環境のクラウドサービスである④「Cloud Platform Service」で構成されます。SAPソリューションを利用するお客様へは、SAPジャパンが認定した高品質な環境としてSAP HANA®を仮想マシンで提供します。Cloud Cover Serviceは、24時間365日の運用サポート体制の下、OSやデータベースについての監視、障害対応、設定変更などを請け負います。SAPソフトウェアについてはデータベースやWebインタフェースなど、共通基盤(SAP BASIS)の運用サービスを提供します。

## CUVICmc2 IaaSメニュー



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社  
[www.ctc-g.co.jp/](http://www.ctc-g.co.jp/)